熊本地震からの創造的復興への「帆跡」

~全国のNN技術職員の皆様へ 感謝の気持ちを込めて~

最大震度7の揺れに2度見舞われ、甚大な被害をもたらした平成28年熊本地震から早3年。 熊本県内では復旧・復興が着実に進む一方で、時間の経過とともに地震の記憶は風化しつつあり、これからも熊本農業の「今」をお伝えします。

第9号 令和元年(2019年) 6月27日発行





【日次】

- 復旧・復興トピックス(令和元年度第1四半期)
- 営農再開の進捗状況などについて
- 広報・広聴活動

復旧・復興トピックス(令和元年度第1四半期)

4月14日(日曜日) 【熊本地震前震から3年を迎える】

くまもと復旧・復興有識者会議を開催

この有識者会議は、熊本地震からの創造的復興に向けた歩みを振り返るとともに、熊本が目指(いおきべ まこと)

すべき姿や、全国に教訓を発信する方策について考えるために開催したもので、五百旗頭真座長 (熊本県立大学特別栄誉教授)をはじめとする有識者5人と意見交換を行いました。

県内外から330人が参加する中、会議では、「熊本地震からの復旧・復興の取組みが着々と 進んでいるのは、地震の前から、県政の長期ビジョンや職員との信頼関係が構築されていたから であり、『想像を超える"創造的復興"』と言える。」といった意見も出されました。





4月15日 (月曜日)

第7回 平成28年熊本地震復旧・復興本部会議を開催

この会議は、県庁の各部局が一体となり、熊本地震からの復旧・復興を迅速かつ強力に進めていくために開催しているものであり、各部局からの復旧・復興に関する進捗状況報告のほか、 今後目指すべき方向性について、県庁全体で情報共有を行いました。

蒲島知事は、「今年度は蒲島県政3期目の総仕上げにあたる極めて重要な一年となる。『すまいの再建』をはじめ、『創造的復興に向けた重点10項目(※)』に掲げた任期中の目標に向けて、県庁の総力を挙げて、全力で取り組みを加速化させていきたい。」と述べました。

※「平成28年熊本地震復旧・復興プラン」の中から、特に県民生活に関わりの深い10項目を選定し、 重点的に進捗管理を行うことで、復旧・復興全体の加速化を図っているもの。

創造的復興に向けた重点10項目

創造的復興に向けた重点10項目とは、「平成28年熊本地震復旧・復興プラン」の中から、特に県民生活に関わりの深い10項目を選定し、重点的に進捗管理を行うことで、復旧・復興全体の加速化を図るものです。

農業関係では、<u>農地及び営農施設の復旧等による営農再開100%完了</u>を目指し、取組みを加速させています。

重点10項目	一 令和元年度末の到達イメージ
1.「すまい」の再建	被災者の意向に沿った「すまい」の再建・確保を完了
2.災害廃棄物の処理	発災後2年以内(H30.4月まで)に災害廃棄物の処理を完了
3.阿蘇へのアクセスルート (道路、鉄道)の回復	県として最大限の働きかけを行い、国と連携して早期の復旧を 図る
4.熊本城の復旧	2019年(H31年)国際スポーツ大会までに、熊本市とともに 復興のシンボルとして天守閣を復旧
5.益城町の復興まちづくり	熊本高森線の4車線化について、平成31年度までにモデル 地区を先行整備~以降順次整備
6.被災企業の事業再建	グループ補助金を活用した施設・設備の復旧等による事業 再建完了
7.被災農家の営農再開	農地及び営農施設の復旧等による営農再開100%完了
8.大空港構想 NextStageの実行	阿蘇くまもと空港の新たな運営者の決定及び国内線別棟ビルの運営開始
9.八代港のクルーズ拠点整備	専用岸壁、おもてなしエリアの整備により、年間200隻程度の 大型クルーズ船が寄港可能な受入環境を実現
10.国際スポーツ大会の成功	2つの国際大会(女子ハンド、ラグビー) の成功を通して復興 する熊本を国内外に発信

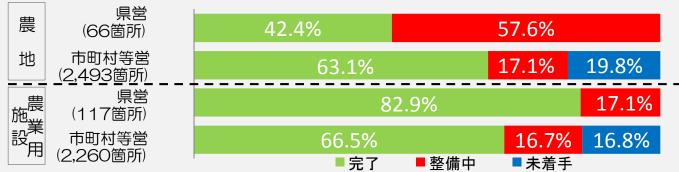


農地及び営農施設の復旧等による営農再開100%完了に向けたロードマップ (令和元年5月末現在)



復旧・復興の状況 ※大切畑ダムを除く

- 令和元年(2019年)5月末時点で64.8%の工事が完了。
- ○早期の復旧工事の完了に向け、工事業者の確保が課題。



創造的復興地区などの状況



阿蘇谷地区 (阿蘇市)

~大規模陥没農地(63ha)の復旧、3年ぶりの田植え~

【被災直後】



【工事完了 (平成30年 (2018年) 6月) 】



創

秋津地区 (熊本市)

~大規模陥没農地(172ha)で営農との調整を実施し、工事概成~

【被災直後】

【工事概成 (令和元年(2019年)5月時点 進捗率96%)】



の大区画化ほ場 (50a/枚) は 被災前の9.4baから1.4

○大区画化ほ場(50a/枚)は 被災前の9.4haから140haに拡大 ○客土や暗渠排水の機能回復による

震災後初めてのれんげ祭り

水田の汎用化、担い手への農地集

〇工事期間中も営農が継続できるよう 麦作期と大豆作期に分けて工事施工



乙ヶ瀬地区(阿蘇郡南阿蘇村)

~大規模被災農地を県営中山間地域総合整備事業(26ha)で工事着工~

【被災直後】



熊本地震により山腹が崩壊し、 大量の土砂が農地に堆積 計画区域26haのうち、4ha の農地が被災 (大区画化等)

【工事着工】

外国人材を活用し 復旧・復興工事の加速化



2019年の営農再開に向けて事業を加速化

- 〇一部で大区画化、標準区画を40aに拡大 〇水田の汎用化による高収益作物の導入
- ○担い手への農地集積を促進

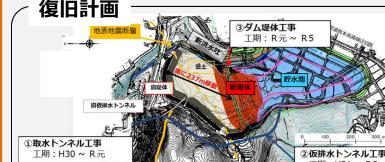
大切畑ダム (ため池) (阿蘇郡西原村)

~昨年度、取水トンネル工事及び仮排水トンネル工事に着工し、令和元年度には本体工事に着工予定へ

施設概要

- 〇西原村の農業用水確保のため、 約160年前に築造されたため池。
- 〇昭和50年に完了した「県営高遊原 地区土地改良事業」により貯水量 を拡大。
- 〇県内のため池で3番目の貯水量を 有し、現在の受益地は、約717haに 及ぶ。





取水トンネルの施工状況

事業費 (H31.4現在)9,577百万円 ※消費税8%で算出

• 補助率 (国) 99.685%、(県) 0.315%

着実かつ計画的に推進和6年の供用開始に向けて

5月22日(水曜日)

「平成30年度(2018年度)実績に係る知事表彰(蒲島賞)」を受賞

本県(人事課)が主催する、「平成30年度(2018年度)実績に係る知事表彰(蒲島賞)」に 阿蘇谷災害復旧チーム(阿蘇地域振興局農地整備課)が選ばれ、去る5月22日(水曜日)、 熊本県庁で表彰式が行われました。

本県では、顕著な業績があった県の職員を「蒲島賞」として表彰し、その功労に報いることで、 職員等の勤務意欲の高揚を促すとともに、業務能率の向上を図ることとしています。

今回、同チームが携わった「阿蘇谷創造的復興の取組み」が高い評価をいただきました。

このような素晴らしい賞の受賞は、関係各位のご支援・ご協力が

あってのことと改めて深く感謝するとともに、この賞をステップ に更に取り組んで参ります。

引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。





(左)蒲島知事と受賞者の集合写真 (右)表彰状

令和元年7月から同年11月まで

「くまもとの農業農村整備復旧・復興リレーパネル展」を開催

本県では平成30年度(2018年度)から、これまでの全国からの御支援に感謝し、県内の 復旧・復興状況等を紹介するため、本趣旨に御賛同いただいた自治体と連携し、リレー方式で パネル展を開催しております。

今年度も、7月から11月にかけて、対象府県の都合の良い期間に開催することで、現在日程 調整を行っているところです。

開催の折には、多く方のご来場を心からお待ち申し上げます。

くまもとの農業農村整備復旧・復興リレーパネル展

※平成30年度(2018年度)の開催状況

